



つがゆき 隣保館だより



令和2年 5月号

発行: 都賀行隣保館 TEL 82-2679 FAX 74-2121

♡ 7千と人権講座

♡ 新型コロナウイルス感染症について(Ⅲ)

～新型コロナウイルス感染者&関係者の人権を考える～

今日もテレビのリモコンをおすと画面から「新型コロナ感染症」に関する映像が流れています。

現在(5月15日)、全国的に感染者数は減少傾向にあるものの、第2、3波も予想され、依然として予断を許さない状況が続いています。

この欄においても、2月号、3月号で「新型コロナ感染症問題とデマ・噂」を中心に書かせてもらいました。

今月も、再び「新型コロナ感染症」に関する事に触れてみようと思います。

現在、デマ、噂の他に感染者やその家族に対する誹謗中傷、いじめ、排除、差別的な対応などの人権侵害が大きな問題となっています。

差別的な対応を受けるのは感染者、その家族だけでなく、治療にあたる医療関係者も周囲から「ばい菌」扱いをされるなどの事例もあるようです。あるいは医療関係者の子どもが保育園に登園自粛を求められるケースもあったようです。

また、学生の感染を発表した大学の学生が飲食店から入店を断られたり、果ては長距離運転手の子どもの学校から自宅待機などを求められる例も発生しています。

これらのケースに対し、マスコミ、各県、市町のホームページ等においても「新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別をなくそう」というメッセージが数多く発せられています。

私たちは新型コロナウイルスに限らず、正体不明なものに、不安や恐れを感じる傾向があります。ましてや、「新型コロナウイルス」と聞くとその傾向は一層強くなります。

そして、この心理は今回の新型コロナウイルス感染症に関わる人々を不必要に避けようとする等の差別的な行動に結びついていきます。

また、同和問題などの他の人権問題と同様に、インターネットによる誹謗中傷、差別的な投稿などがみられます。

もちろん、新型コロナウイルス感染症という、まだ治療法が確立されていない病気に充分気をつける必要があります。

しかし、不必要な詮索を止めて差別的な言動に同調せず、確かな情報に基づいた冷静な行動が今ほど、私たち一人ひとりに求められる時期ではないでしょうか。

子川千代美さんは隣保館の活動や地域の活動に積極的に参加されて、いつもはつらつと活動する子川さんを目撃している地域の方もたくさんおられます。元気で明るい満92歳の子川千代美さんにお話を伺いました。



★皆さんのお陰様と感謝、感謝の気持ち★

昔はみんな貧乏で作った野菜や米、山の物で生活していたんだよ。

私の母は偉かったね。私は母に笹の刈り方を教えてもらった。母の刈った笹は切り口が真っすぐで田にすき込んでも足に刺さらなかったね。父は片足が不自由で杖を突いて山の仕事にも行って、私ももっと頑張らなくてはと思った。姑さんも偉かったね。連れ合いを亡くした私を勇気づけるため先になって田に出て仕事してくれた。実兄とその家族はいつも私を気使ってくれる。みんなに感謝、感謝の気持ちをいつも思っている。

思い出せば身体を使う仕事ばかりで苦勞もしたけど、いつも誰かに助けてもらい教えられて、皆さんのお陰だと思ふ。

★人に育ててもらった★

営林署で香川県出身の署長さんがうどんを持って来られ、その時湯がき方も知らなくて、こんな私に炊事の仕事を務まるか心配だった。だから一生懸命仕事をしてきた。でも、周りの人に支えてもらい人に育ててもらったと思っている。楽しい経験もさせてもらった。

★先の事を考えて行動している★

野の路を取った後は、来年の育ちを想像して周りの草を取ったり土を戻したりして帰るよ。

畑の仕事もいろいろ考えて、ジャガイモやナスなど連作しないよう、今年はどこに植えようかと計画を立てたりね。最近はあるこれ忘れて、スムーズにいかないことも多くなってね。息子や孫に頼めば畑を打ったり、木を切ったりして手伝ってくれるので助けてもらいながら思うままにできるところまで楽しんでいきたい。今一番の楽しみは畑仕事だよ。

畑の物を収穫していくと料理して食卓に並べてくれるから・・・笑

「料理するんですか？」と聞くと「私は作らないよ」と家族の顔を見て嬉しそうにされていました。今の季節ウドの新芽のてんぷらは絶品との事でした。



※館長から一言

私が初めて隣保館で勤務していた時(昭和54年)隣保館の教室や色々な活動に参加されていました。平成29年に再び隣保館でお会いした時も編み物や華道教室に参加されている姿を見てうれしく思いました。また、現在も『カラオケ喫茶』に参加され、元気な若々しい声で歌われているのを聴き、皆さんから慕われ愛されている方だと感じました。

＜ 相談事業 ＞ 隣保館はいろいろな相談をお受けしています。

内容は、パソコンの操作方法から申請書などの書き方、日常生活で困っている事や就労のことなど幅広く扱っています。難しい問題でも、各関係機関との連携を取りつつ、解決に向けて寄り添います。知りたいことやどこに相談していいかわからないことなど、お気軽にご相談ください。

※ハローワークより求人情報が毎月隣保館に送られてきます。※

求職されている方や最新情報が知りたい方は、隣保館までご連絡ください。

◇ お知らせ ◇

今年度の教養講座はコロナ感染拡大防止のため中止とします。申し込みを提出していただいた方々や、開催を楽しみにされていた方々には大変申し訳ございません。くれぐれも体調に気をつけられ、無理をせずお過ごしください。

(予定表をお配りしていた所は、今年度は配布を中止いたしますのでご了承下さい。)



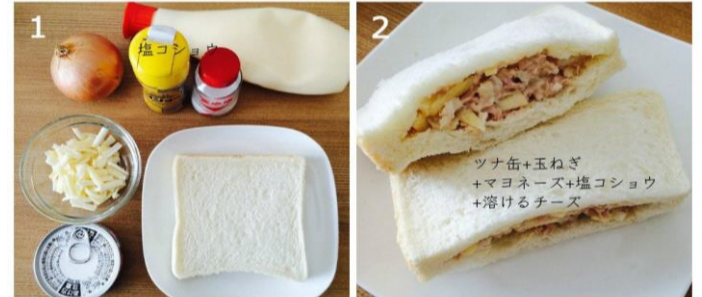
✿ フラワーパーク活動について ✿

今年度のフラワーパーク活動は、小学生と地域の方が一緒に花植えの作業をしたいすることはできませんが、畑の下準備などを職員がしたり、小学生の花植えの写真を撮って送ったりするなどして地域の皆さんと共有していきます。できる範囲内で継続していくかたちにしたいと思います。(6/3花植え予定)

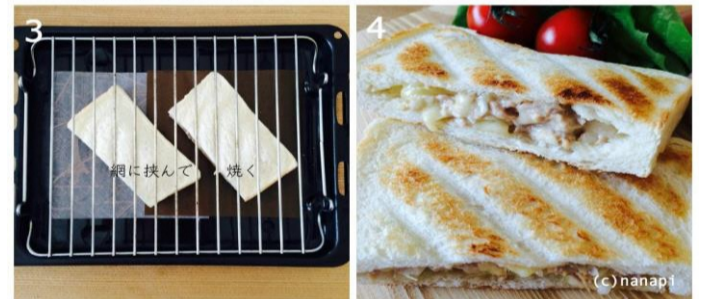
今後の見通しは立っていませんが、また作業をしていただく際には、ご協力をよろしくお願い致します。



★知って得する?情報★



魚焼きグリルで! 「チーズメルト・パニーニ」の作り方



網に挟んで焼く

障がいについて考える《ユニフォームの力》

北澤 豪さん...元サッカー日本代表

日本障がい者サッカー連盟会長

H30年度人権擁護功労賞法務大臣表彰

(ユニバーサル社会賞)を受賞



ワンチームはユニフォームから!!

7つの障がい者サッカー団体の競技用ユニフォームのデザインが統一されました。

記者会見で選手がみな同じユニフォームで集まったら、所属団体に関係なく話をするようになったのです。今までは団体ごとに固まっていたのが、一瞬にしてみんながチームメイトになれた。垣根を越えて“ワンチーム”になった瞬間でした。

障がいの有無にかかわらず『サッカー』というくくりでユニフォームを統一すること、男子サッカーの日本代表や、なでしこジャパンと同じユニフォームを着るとするのがこれからの目標です。

《平等にスポーツをやる環境やチャンスを与えられることがスポーツである》

公益財団法人 人権教育啓発推進センター 発行

『アイユ』4月号より引用